

# 特集

## ラテンアメリカ 左派の変遷

### 特集にあたって

1990年代にラテンアメリカ地域では広範に新自由主義経済政策が採用されたのに対し、21世紀になると社会的公正を重視する左派政権が続々と誕生した\*。そうした左派政権は穏健派や急進派等に色分けされ、成立過程、政権のスタイル、政策等が異なり必ずしも一様ではなかった。とはいえ、各左派政権は社会的公平の達成を政策目標とし、一次産品価格の上昇による輸出の拡大に支えられたこともあり、社会政策を拡充する傾向にあった。

しかし、2008年秋の米国発金融危機以降、輸出の増大に支えられた経済に陰りがでてきた。また、2009年にはエルサルバドルで左派政権が誕生する一方で、ホンジュラスでは左派系大統領がクーデターで追放される等新たな動きが見られる。本特集では、エクアドル、エルサルバドル、メキシコおよびホンジュラスにおける左派を中心とした最近の政治情勢を分析する。

\*この点に関しては、遅野井茂雄・宇佐見耕一編[2008]『21世紀ラテンアメリカの左派政権：虚像と実像』アジア経済研究所を参照して下さい。

(宇佐見耕一)